

研究資料

新出資料紹介『第八回白馬会展覽会出品目録』

植野 健 造

はじめに

ここに紹介するのは、明治三十六年（一九〇三）九月十六日から十月二十七日まで、上野公園元内国勸業博覧会跡第五号館で開催された白馬会第八回展の出品目録で、これまでその存在が確認されておらず、内容も不明であった資料である。

筆者は、平成二十五年（二〇一三）三月十七日、熊本県天草市の高木聰氏宅を訪問調査した際に、同氏から同家に所蔵されていた本資料を提示され、初めてその存在を確認した。高木聰氏は、明治期の洋画家・青木繁（一八八二―一九一）の東京美術学校西洋画科在学中の同級生であった高木巖（たかぎ・いわお、一八七九―一九五四）の孫にあたる方で、この時の訪問調査の当初の目的は、高木巖とともに撮影された青木繁の写真資料が所蔵されているとの情報をえて、同資料ならびに高木巖に関する資料を調査することにあつたのだが、当日に思いもよらず本資料の提示を受けたのであつた。その後、資料は保存と活用を憂慮された高木聰氏のご好意により、平成二十五年（二〇一三）四月に福岡県久留米市の石橋財団石橋美術館に寄贈され、現在は同館で所蔵保管されている。

本稿では、本資料について解題し、画像とテキストで内容を紹介し、本資料の出現で得られた新知見についても言及したい。

明治二十九年（一八九六）六月に黒田清輝らを中心として結成された洋風美術団体「白馬会」は、同年秋に第一回展を開催して以後、明治四十三年までに十三回の展覽会を開催し、明治四十四年三月に解散した。西洋の新しい芸術思潮と技術を基盤として結成された白馬会が、当時の日本の美術界、ひいては社会に与えた影響は

大きく、同会の活動は日本近代美術史におけるアカデミズムの形成にも深く関係している。

同会の活動については、平成八年（一九九六）から平成九年にかけて、「結成一〇〇年記念 白馬会―明治洋画の新風」展が、ブリヂストン美術館・京都国立近代美術館・石橋美術館の三会場で開催され、活動の全体像が明らかとなったことの意義が大きい。⁽²⁾ またその前後に、多くの美術団体、展覽会の資料が復刻されたことも研究に多大な貢献をなした⁽³⁾ こととして特筆される。また、前期の展覽会に学芸員として関わることできた筆者は、展覽会前後の調査研究をまとめた『日本近代洋画の成立 白馬会』を平成十七年（二〇〇五）に刊行することができた。⁽⁴⁾

しかし、これまで白馬会の全十三回の展覽会のうち、基本資料となる出品目録については明治三十六年（一九〇三）第八回展と明治三十七年（一九〇四）の第九回展の二回分が未確認、画集については明治三十七年の第九回展のものが広告記事として見出されるものの、実際に刊行されたかどうか未確認であった。そのような状況にあつて、明治三十六年第八回展の出品目録が新たに確認されたことの意義は大きい。

まずは、本資料の書誌的情報を掲げておく。

『明治三十六年 第八回白馬会展覽会出品目録』

縦一五・四×横九・〇cm、表紙、裏表紙、中一六頁、糸綴

表・明治三十六年／第八回白馬会展覽会出品目録／精華書院発行

扉・明治三十六年／第八回白馬会展覽会出品目録／精華書院発行

備考・発行年月日などを記載した奥付なし。末尾頁に『白馬会新作集』（全三冊、精華書院、明治三十六年白馬会第八回展）の広告記事あり。

*刊行年月日の記載はないが、展覽会会期から考えて明治三十六年（一九〇三）九月の刊行と推察される。

石橋財団石橋美術館（平成二十五年（二〇一三）四月、高木聰氏寄贈）

一、白馬会展の活動の再確認

筆者は、前記した『日本近代洋画の成立 白馬会』において、白馬会展の概要に

【資料１－１】白馬会展の概要

明治29年（1896） 10月7日～11月30日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第1回展 出品目録：「第一回白馬会展覧会出品目録」『光風』第4号、明治38年11月

画 集：刊行されず

出品点数：210点（『光風』第4号）

※『光風』第4号では会期は10月7日～11月29日とあるが、『毎日新聞』明治29年11月5日および『報知新聞』明治29年11月25日によると11月30日まで会期延長とある。

明治30年（1897） 10月27日～12月5日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第2回展 出品目録：「第二回白馬会展覧会出品目録」『光風』第2年第1号、明治39年1月

画 集：刊行されず

出品点数：298点（『光風』第2年第1号）

※『光風』第2年第1号では会期は10月28日～12月5日とあるが、『東京朝日新聞』明治30年10月28日によれば10月27日開会とある。

明治31年（1898） 10月5日～12月10日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第3回展 出品目録：1)「第三回白馬会展覧会出品目録」『洋画新彩』、画報社、明治31年12月

2)「第三回白馬会展覧会出品目録」『光風』第2年第4号、明治39年10月

画 集：『洋画新彩』、画報社、明治31年12月

出品点数：361点（『光風』第2年第4号）

※『光風』第2年第4号では会期は10月5日～11月20日とあるが、『毎日新聞』明治31年10月14日によれば10月6日開会とあり、『毎日新聞』明治31年11月29日によれば12月10日まで会期延長とある。

※出品目録の1)と2)では内容が少し異なる。

明治32年（1899） 10月10日～11月20日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第4回展 出品目録：「第四回白馬会展覧会出品目録」『光風』第4年第2号、明治41年12月

画 集：刊行されず

出品点数：377点（『光風』第4年第2号）

※『光風』第4年第2号では会期は10月10日～11月20日とあるが、『読売新聞』明治32年10月17日によれば10月11日開会とある。

明治33年（1900） 9月20日～10月27日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第5回展 出品目録：「白馬会第五回展覧会目録」

画 集：刊行されず

出品点数：329点（「白馬会第五回展覧会目録」）

※「白馬会第五回展覧会目録」では会期は9月20日～10月25日までとあるが、『二六新報』明治33年10月25日によれば10月27日まで会期延長とある。

明治34年（1901） 10月17日～11月13日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第6回展 出品目録：「第六次白馬会展覧会出品目録」

画 集：刊行されず

出品点数：356点（「第六次白馬会展覧会出品目録」）

※『都新聞』明治34年10月20日によれば10月17日開会とある。

明治35年(1902) 9月20日～10月29日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第7回展 出品目録:「第七次白馬会展覧会出品目録」

画 集:『白馬会画集』、普及舎、明治35年10月

出品点数:397点(「第七次白馬会展覧会出品目録」)

明治36年(1903) 9月16日～10月27日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第8回展 出品目録:『第八回白馬会展覧会出品目録』、精華書院、明治36年9月

画 集:『白馬会新作集』(第1輯-第3輯)、精華書院、明治36年10月

出品点数:451点(『第八回白馬会展覧会出品目録』)

明治37年(1904) 9月22日～11月13日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第9回展 出品目録:未確認

画 集:未確認

出品点数:「二百余点」(『東京朝日新聞』明治37年10月22日)、「三百余点」(『萬朝報』明治37年10月3日)、
「総数二百八十一」(『美術新報』明治37年10月20日)

※白馬会第9回展の画集は未確認であるが、『美術新報』明治37年10月20日に『明治三十七年白馬会新作集』、
精華書院の近刊広告記事あり。

明治38年(1905) 9月23日～10月28日 上野公園元内国勸業博覧会跡第5号館

第10回展 出品目録:「白馬会創立十年記念絵画展覧会出品目録」『記念画集 白馬会』、金尾文淵堂、明治38年
10月

画 集:『記念画集 白馬会』、金尾文淵堂、明治38年10月

出品点数:新作242点、記念品251点、計493点(『記念画集 白馬会』)

※『記念画集 白馬会』では会期は9月22日～10月25日とあるが、『東京朝日新聞』明治38年9月30日、『中
央新聞』明治38年9月23日、『美術新報』明治38年10月20日では9月23日開会とあり、『美術新報』明治38
年10月20日では10月28日閉会とある。

明治40年(1907) 10月7日～11月10日 上野公園元東京勸業博覧会第2号館南部

第11回展 出品目録:「白馬会第拾壹回展覧会出品目録」『光風』第3年第2号、明治40年12月

画 集:『光風』第3年第2号、明治40年12月

出品点数:323点(『光風』第3年第2号)

※『光風』第3年第2号では会期は10月6日～11月10日とあるが、『読売新聞』明治40年10月9日および『美
術新報』明治40年10月5日では10月7日開会とあり、『都新聞』明治40年10月30日によれば11月15日まで
会期延長とある。

明治42年(1909) 4月16日～5月12日 赤坂溜池三会堂

第12回展 出品目録:『白馬会第拾貳回絵画展覧会出品目録』

画 集:刊行されず

出品点数:245点(『白馬会第拾貳回絵画展覧会出品目録』)

明治43年(1910) 5月10日～6月20日 上野公園竹之台陳列館北部

第13回展 出品目録:1)「白馬会第拾参回絵画展覧会出品目録」

2)「白馬会第拾参回絵画展覧会出品目録」『庚戌白馬会画集』、画報社、明治43年6月

画 集:『庚戌白馬会画集』、画報社、明治43年6月

出品点数:665点(『庚戌白馬会画集』)

※『国民新聞』明治43年5月12日によれば5月11日より一般公開。

※出品目録の1)と2)では内容が多少異なる。

【資料1－2】白馬会展における出品作者数と作品数の推移

註）本表に示した数字は、編者が作成した白馬会関連資料のデータベースにもとづく。個々の数字についてはその根拠や補足の説明が必要なものもあるが、それらをすべて注記することは煩雑となるため省略した。また、個々の数字にはさまざまな理由により多少の誤差があるものと思われる。あくまでも白馬会展全13回の作者数、作品数の概要を理解するものとして参照願いたい。なお、□は参考品や記念品として出品された作者の数である。

展覧会回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年（明治）	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	40	42	43
◎会員	17	17	15	16	12	14	49	19	83	16	11	16	14
○準会員				2	5								
△客員		21	26	28	21	34		42		54	106	89	186
□			3		1	38	15	13	5	12		1	8
作者数	17	38	44	46	39	86	64	74	88	82	117	106	208
作品数	210	298	361	377	329	356	397	451	281	493	323	245	665

【資料1－3】白馬会展への会員の出品

註）◎は会員、○は準会員、△は客員、□は参考品、記念品としての出品を示す。
出品目録に会員、客員の記載のない第7回展および出品目録の確認されていない第9回展についてはすべて△または□で示した。新出の第8回展目録で判明した事項は、□で示した。

展覧会回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
年（明治）	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	40	42	43
出品者名													
黒田清輝	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎
久米桂一郎	◎	◎	◎							□			
山本芳翠	◎					◎	△	◎		□			□
合田清	◎	◎								◎			
佐野昭	◎	◎		◎									
菊地鑄太郎	◎	◎	◎		△				△	□			
小代為重	◎	◎	◎	◎	◎	◎				□			
藤島武二	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	□			◎
岡田三郎助	◎	◎		◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎
和田英作	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	
安藤伸太郎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	
小林萬吾	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎
白瀧幾之助	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎		□			
湯浅一郎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎			◎
中村勝治郎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎
今泉秀太郎（一瓢）	◎	◎											
長原孝太郎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎
丹羽林平		◎		◎		◎	△	◎	△	◎			
中沢弘光		△	△	△	○	△	△	◎	△	◎	◎	◎	◎
矢崎千代治		△	△	△	○	△	△	◎		◎		◎	◎
Rodolphe Wytzman		△	◎	◎				□	△	□			
Juliette Wytzman		△	◎	◎					△				
北蓮蔵		△	◎	◎	◎	◎		◎		□		◎	
磯野吉雄		△	△	△	○	△	△	◎	△	△			
中丸廉一（精十郎）		△	△	△		△	△	◎	△	◎			
広瀬勝平		△	△	○									
山本森之助		△	△	○	○	△	△		△	◎	◎	◎	◎
森川松之助			△	△	△	△	△	◎	△	△			
三宅克己（巳、巳）				△	○	△	△	△	△	◎	◎	◎	
岡野栄					△		△	△	△	△	△	◎	◎
跡見泰						△		△	△	△	△	◎	◎
橋本邦助							△	△	△	△	△	◎	◎
小林鍾吉							△	◎	△	◎	◎	◎	◎

ついでまとめておいたが、本資料が見出されたことを契機に、明治三十六年第八回のデータを修正するとともに、全十三回分の基礎データを改めて提示しておきたい。

二、青木繁に関する新知見

青木繁は、明治三十六年（一九〇三）の白馬会第八回展にインドや日本の神話画稿類十数点を出品して白馬賞を受賞して、画壇デビューを果たした。しかし、白馬会第八回展の出品目録の存在がこれまで確認されていなかったため、青木のこの時の正確な出品内容は明らかでなかった。出品目録が見出されたことにより、その内容が明らかになったことの意義は大きい。これまで、青木の友人の証言や諸新聞や雑誌の記事から、『黄泉比良坂』（明治三十六年、色鉛筆、パステル、水彩、紙、四八・五×三三・五cm、東京藝術大学）と『閻魔弥尼』（明治三十六年、油彩、板、一四・七×一〇・三cm、石橋財団石橋美術館）がこの時の出品作で数少ない現存作品と考えられてきたが、前者については、出品目録「327 与茂都比良佐加（草稿） 青木繁」に同定して問題ないであろう。後者については、「水彩画、パステル画類」を展示す

挿図1 青木繁《自画像》明治36年、石橋財団石橋美術館

る部屋に展示されていることが検討の余地はあるが、きわめて小さな画面の作品であることも考慮して、出品目録「308 閻魔弥尼 青木繁」に同定してよいと考える。他の宗教、神話画題の作品については、現存作品の中に新たに明確に同定できる作品をにわかには見出し得ないのが現状であるが、その画題の特異さはあらためて研究の関心を惹起するものである。また出品目録に「299 自画像 青木繁」とあり、素描の自画像が出品されていたことがうかがえるが、このことは新たに判明した事実であり、『自画像』（明治三十六年、色鉛筆・紙、二二・三×一四・四cm、石橋財団石橋美術館 挿図1）に同定してもよいと筆者は考える⁽⁵⁾。

むすび

本稿では、白馬会展の基礎資料の中でこれまで現存することが確認されていなかった明治三十六年白馬会第八回展の出品目録を発見することができたので、その内容を紹介した。出品目録の内容から、同展で白馬賞を受賞した青木繁の出品内容について少し検討をくわえた。今後は、さらに青木繁の出品についてその主題の特異さを当時の青木の関心や時代背景との関連の中で再考察してみたい。また、青木繁にみならず黒田清輝をはじめとした他の白馬会出品画家にとっても新たな知見を提供するものと思う。さらには、いまだその存在が確認されていない明治三十七年白馬会第九回展の出品目録、ならびに画集が、そして内容こそ白馬会の雑誌『光風』に採録されているものの、現物自体は存在が確認されていない明治二十九年白馬会第一回展から明治三十二年白馬会第四回展までの出品目録が発見されることを期待したい。

註

- (1) 高木巖は明治十二年（一八七九）東京の生まれ。父は静岡・駿府藩の士族で明治以後、静岡、山形の郡長を務めたという。巖の兄・高木助一郎は日露戦争連合艦隊の戦艦「三笠」の艦長で海軍大佐であった。母の弟には山本権兵衛がいる。巖は天草に縁はなかったが、東京美術学校卒業後、済々黉中学校天草分校の図画教員として同地に赴任、以来、同地で図画教員を長く務め、昭和二十九年（一九五四）に七五歳で死去した。

高木巖のことについては、以下の文献を参照。

・鈴木喜「天草放浪の青木繁」『毎日新聞』西部本社版、昭和三十年（一九五五）十二月二十二日、三頁

・鈴木喜「青木繁の天草放浪―坂本繁二郎、梅野満雄のことなど」『九州人』第二〇号、昭和四十四年（一九六九）九月

・大野俊康「青木繁の『天草風景』について」（上）（下）『週間みくに』昭和四十七年（一九七二）六月九日、十六日

・鶴田亀男「天草を描く」（14）『みくに』昭和四十四年（一九六九）十月十日

・大野俊康「青木繁の『天草風景』を追って」『天草毎日新聞』昭和五十年（一九七五）一月三十日～二月八日

・河北倫明「天草風景」『河北倫明美術論集』第三卷、昭和五十二年（一九七七）十二月、講談社

・金子一夫『近代日本美術教育の研究―明治時代―』平成四年（一九九二）二月、中央公論美術出版

青木繁が、いわゆる晩年の九州放浪時代に天草の高木巖を訪ねたのは、明治四十二年（一九〇九）一月初めのこととみられ、その後一月末までは同地に確実に滞在していたと推察される。二月から三月にかけても天草に滞在した可能性があるが、この時期の青木の動向についての詳細は不明である。

・植野健造編「青木繁年表」『没後100年 青木繁展―よみがえる神話と芸術』展図録、石橋美術館、ブリヂストン美術館、毎日新聞社、平成二十三年（二〇一一）三月

なお、平成二十五年（二〇一三）三月十七日の高木家調査では、本資料の他、青木繁、高木巖、白馬会関係の次のような資料を確認、調査した。

・調査状況は、「日本近代美術史上の新発見―青木繁と白馬会」天草テレビ（インターネットテレビ）、平成二十五年（二〇一三）三月二十四日公開、を参照。

◎調査作品、資料

① 高木巖 旧蔵 写真アルバム

表紙、裏表紙…皮、布張り 台紙、写真貼付、冊子 縦二七・五×横三五・五×厚み二・四 cm

表紙＋裏表紙＋十四枚

（表紙裏から1頁、2頁、3頁と数えて）

1頁 東京美術学校西洋画科卒業記念写真（明治三十七年七月四日）

二一・五×二七・一 cm

2頁 「東京美術学校第十三回卒業証書授与式 明治三十七年七月四日」

人物特定表、紙・印刷
一八・七×二六・二 cm

3頁 「第一回全国図画教育者大会記念撮影 明治三十九年八月一日ヨリ同年同月五日マデ開催」人物特定表、紙・印刷

4頁 第二回全国図画教育者大会記念写真（明治三十九年八月）
二一・五×二八・二 cm

5頁 東京美術学校木炭画教室写真（明治三十四年六月一三日）
二一・三×二七・二 cm

6頁 白馬会溜池研究所記念写真（明治三十五年春、赤坂山王公園にて）
二一・五×二七・七 cm

7頁 九州各県図画教育者大会記念写真（福岡高等女学校）
備考…撮影時期不詳、明治四十年～大正二年

11頁 左上 美術祭オリンピア競技扮装写真
一〇・四×一四・三 cm

備考…撮影時期不明、明治三十年代
17頁 左上 東京美術学校西洋画科卒業生記念写真
（明治三十七年六月、西洋画教室にて）

七・九×一一・七 cm

30頁 左上 東京美術学校西洋画科卒業生記念写真（卒業前、教室にて）

一〇・八×八・三 cm

② 高木巖 旧蔵 絵の具箱

木製（桐）、縦二六・八×横三六・七×厚み七・六 cm
③ 高木巖 旧蔵 画架（イーゼル）
木製、金具付き、収納時長さ八七・〇 cm

④ 高木巖 《天草風景》

大正期～昭和前期か？
油彩、カンヴァス、額装（ガラス入り）
四五・五×三三・五 cm 八号P

⑤ 高木巖 《スケッチ帖》
額 六一・五×四九・三×五・六 cm

⑥ 高木巖 《スケッチ帖》
額 六一・五×四九・三×五・六 cm
表紙…麻布張、紙・冊子 縦一四・五×横一九・一 cm

「高木巖 東京美術学校西洋画科卒業証書」

明治三十七年七月四日、東京美術学校長 正木直彦
縦四一・四×横五四・八cm

⑦ 「高木巖 私立麻布中学校卒業証書」

明治三十三年四月、私立麻布中学校長 江原素六
縦三一・三×横四一・八cm

(2) 『結成一〇〇年記念 白馬会―明治洋画の新風』展図録、ブリヂストン美術館・京都国立近代美術館・石橋美術館・日本経済新聞社、平成八年（一九九六）十月、展覧会期・一九九六年十月十九日―十一月二十八日 ブリヂストン美術館、一九九六年十二月十日―一九九七年一月二十六日 京都国立近代美術館、一九九七年二月七日―三月十六日 石橋美術館

(3) 白馬会展については次の資料集がある。

・東京国立文化財研究所美術部編『明治期美術展覧会出品目録』中央公論美術出版、平成七年（一九九四）七月

・東京文化財研究所編『近代日本アート・カタログ・コレクション 013015 白馬会』全三巻、ゆまに書房、平成十三年（二〇〇一）十一月。ちなみにこの資料集では、明治三十六年白馬会第八回展については、『白馬会新作集』（第一輯―第三輯）、精華書院、明治三十六年（一九〇三）十月、を掲載しており、出品目録は掲載されていない。

(4) 植野健造『日本近代洋画の成立 白馬会』、中央公論美術出版、平成十七年（二〇〇五）十月

(5) 青木繁の自画像の一覧については、植野健造「青木繁 男の顔」『國華』第一三〇五号、国華社、平成十六年（二〇〇四）七月、を参照。

〔付記〕

本稿は、本文中でも書いたように、平成二十五年三月十七日、熊本県天草市の高木聰氏宅を訪問した際の調査の成果にもとづく。調査にあたって、高木聰氏とご家族の皆様と調査に協力してくださった天草テレビの金子寛昭氏に深く感謝申しあげたい。また、本稿をなすに先だち、平成二十五年九月二十四日、東京文化財研究所企画情報部研究会において「新出資料紹介『第八回白馬会展覧会出品目録』」と題して行った研究発表の一部を骨子とする。その際に、同研究所の研究員の皆様に多くの教示や助言をいただいた。記してお礼申しあげたい。

『明治三十六年 第八回白馬会展覧会出品目録』

精華書院、一九〇三年

(一頁)
第八回白馬会展覧会出品目録

凡例

- 一、原文では、作家名など「同上」とある表現は、それぞれ相当する人名、語句に改めた。
- 二、原文では、同一の出品番号で複数の作品を記載している場合があるが、一作品ごとにそれぞれのデータ項目として分けた。
- 三、判読不能文字は□で示した。
- 四、原則として原文の表記通りとしたが、明らかな誤りは訂正している場合もある。
- 五、旧漢字は適宜新字または時として俗字に改めたが、旧漢字のまま用いている字もある。
- 六、とくに、「巳」「已」「巳」の字は同一と思われる作家であっても、統一せず、そのままとした。

31	夕映	森岡柳蔵	65	浜松の町	岡野 栄
30	冬の山家	高辻 武	64	スケッチ	岡 吉枝
29	風景	伊藤直和	63	老女	江間良吉
28	利根川	郡司卯之助	62	平潟港	湯浅一郎
27	摘草	亀山克巳	61	スケッチ	岡 吉枝
26	星	辻 永	60	夕景	西 三雄
25	海浜	郡司卯之助	59	スケッチ	岡 吉枝
24	夏の峯	高辻 武	58	杉の森	岸畑久吉
23	夕	磯野吉雄	57	スケッチ	岡 吉枝
(二頁)			56	風景	岸畑久吉
22	風景	根津文吉	55	スケッチ	岡 吉枝
21	月	郡司卯之助	54	蓮	岸畑久吉
20	夕映	原田竹二郎	53	スケッチ	岡 吉枝
19	百合花	中村勝治郎	52	風景	岸畑久吉
18	比叡山	岩鼻正脩	(三頁)		
17	風景	斎藤豊作	第二室 水彩画、パステル画類		
16	風景	中村勝治郎	51	夕暮	森岡柳蔵
15	多摩川附近	郡司卯之助	50	夏木立	薄拙太郎
14	嫩草山	亀山克巳	49	晩夏の夕	高辻 武
13	雪	橋口 清	48	風景	金沢悌二郎
12	夏の樹蔭	出口清三郎	47	初春	郡司卯之助
11	土浦の夕	岡田三郎助	46	風景	森田亀之助
10	茅ヶ崎の富士	会員	45	藤	中村勝治郎
9	思郷	会員	44	夕立雲	森岡柳蔵
8	夏	岡田三郎助	43	斜陽の海辺	辻 永
7	風景	龍田精三	42	溪流	橋本邦助
6	鬼怒川	金沢悌二郎	41	海	宇和川通喩
5	雪	内野 猛	40	日の出	森岡柳蔵
4	村落の暮	郡司卯之助	39	春	橋本邦助
3	夏の海	吉田六郎	38	浜	磯野吉雄
2	風景	内野 猛	37	川口の岩	森岡柳蔵
1	廃園	亀山克巳	36	添乳	北 蓮蔵
第一室 油画			35	港	橋口 清

66	磯の浜	会員	湯浅二郎	111	少女	橋本邦助	144	枯木の田舎	原田竹二郎
67	岩間の観音		大槻式雄	112	細径	中丸精十郎	145	清水寺	岡田三郎助
67	浜松の町		大槻式雄	113	夏の川	亀山克巳	146	雨の鴨川	中村勝治郎
68	磯の浜	会員	湯浅一郎				147	雪	岡田三郎助
69	スケッチ		岡吉枝	(五頁)			148	雪	磯野吉雄
70	スケッチ		大槻式雄	第四室 油画			149	夕景	橋口清
71	風景		大八木一郎	114	町はづれ	郡司卯之助	150	未萌	原田竹二郎
72	風景		山下新太郎	115	大川口	安藤伸太郎	151	風景	長原孝太郎
				116	鴨川の夕	安藤伸太郎	152	夕月	森川松之助
				117	暮靄	安藤伸太郎	153	夏の晩景	会員
1	特別室 油画		湯浅一郎	118	国府津	安藤伸太郎	154	風景	会員
2	花の香	仏人	岡田三郎助	119	肖像	長原孝太郎	155	風景	長原孝太郎
3	エバ	ヘンリー、デュモン		120	滝の川	安藤伸太郎	156	肖像	岩鼻正脩
(四頁)				121	荒川の帰帆	会員	157	漁村	和田英作
4	エチュード			122	晩春	安藤伸太郎			柴崎恒信
5	春		黒田清輝	123	肖像	長原孝太郎			
6	秋		黒田清輝	124	庭	亀山克巳	158	銚子附近	郡司卯之助
			黒田清輝	125	躑躅花	中村勝治郎	159	孤村	郡司卯之助
				126	蜻蛉	和田三造	160	風景	龍田精三
第三室 油画				127	風景	会員			
88	夕		柳敬助	128	朝霧	丹羽林平	161	波	磯野吉雄
89	風景		龍田精三	129	風景	斎藤豊作	162	風景	長原孝太郎
90	馬	会員	小林萬吾	130	池	会員	163	薔薇花	会員
91	風景		根津文吉	131	復習	白瀧幾之助	164	公孫樹	中村勝治郎
92	田舎の庭	郡司卯之助		132	三十三年の役	安藤伸太郎	166	朝靄	郡司卯之助
93	肖像	会員	和田英作	133	菊地男爵肖像	黒田清輝	167	柳	郡司卯之助
94	磯の浜	会員	岡田三郎助	134	晩鴉	会員	168	崖	小林萬吾
95	雪		亀山克巳	135	鼓	北蓮蔵	169	河畔	北村重樹
96	風景		龍田精三						
97	夕景		山下新太郎	137	岩	郡司卯之助	(七頁)		
104	緑蔭読書		内野猛	138	唐沢山	森川松之助	170	花園	亀山克巳
105	稲叢		森岡柳蔵	139	秋の林	中村勝治郎	171	庭園の花	小林萬吾
106	朝		跡見泰	140	小金井の桜	中村勝治郎	172	風景	岩鼻正脩
107	画家	会員	森岡柳蔵	141	躑躅花	中村勝治郎	173	湖の朝	橋本邦助
108	少女		和田英作	142	秋景	岡田三郎助	174	夕月	柴崎恒信
109	白浜		森岡柳蔵				175	梅林の田家	原田竹二郎
110	朝		柳敬助	143	(六頁)	和田英作	176	風景	薄拙太郎
							177	春	郡司卯之助

178	緑蔭	郡司卯之助	212	沼	郡司卯之助	247	風景	金沢悌二郎
179	月島の月	郡司卯之助	214	月	跡見 泰	248	森の道	会員
180	百合花	中村勝治郎	215	海浜	宇和川通諭	249	秋の夕	中丸精十郎
181	稲叢	辻 永	216	川原	橋本邦助	250	月	会員
182	風景	金沢悌二郎	217	微風	会員	251	風景	中丸精十郎
183	枯芒	岩鼻正脩	218	船	会員	252	月	中村勝治郎
184	百合花	柴崎恒信	219	肖像	宇和川通諭	253	葵の花	中村勝治郎
185	三日月	会員	220	もるゝ日	会員	254	風景	辻 永
186	三国ヶ岳	中村勝治郎	221	肖像	磯野吉雄	255	海	伊達五郎
187	東京附近(二枚)	郡司卯之助	222	二股山	会員	(一〇頁)		
188	田舎の七夕	森川松之助	223	諧音	金沢悌二郎	256	森	会員
189	雪	森川松之助	224	黄昏	磯野吉雄	257	少女	郡司卯之助
190	朝暾	龍田精三	225	初秋	郡司卯之助	第七室 参考画		
191	夕陽	龍田精三	226	松嶋	太田美方	277	風俗画	重欧堂
192	鹿沼山	金沢悌二郎	227	川口の夕暮	辻 永	278	肖像	英人ブラングキン
193	夕暮の三保	会員	228	淡路島	山下新太郎	279	秋の夕暮	白人ギュスタープ・デンデウキ
194	風景	太田美方	(九頁)			280	小児の顔	伊人ウキリヤム・フワイフ
195	夏の景	岡田三郎助	229	夜景	柴崎恒信	281	野景	伊人ホンタ子ジ
196	京の春雨	岡田三郎助	230	蓮池	郡司卯之助	282	夕暮の田舎家	白人ギュスタープ・デンデウキ
197	芥子の花	中村勝治郎	231	菜の花	会員	283	獅子のスケッチ	伊人ウキリヤム・フワイフ
198	夕暮	根津文吉	232	船	会員	284	蜜柑の収獲	白人ロザ・ボンノール
199	道頓堀	湯浅一郎	233	仁和寺古門	会員	285	海岸のスケッチ	英人ブラングキン
200	樹蔭	中丸精十郎	234	曇	会員	286	樹蔭	白人コラン
(八頁)			235	肖像	磯野吉雄	287	野景	英人ウキリヤム・フワイフ
201	花	岡田三郎助	236	日向ぼっこ	原田竹二郎	288	小児の顔	白人ロドルフ・ウキツマン
202	海浜	中丸精十郎	237	菜の花	原田竹二郎	289	スケッチ	伊人バジニ
203	夏木立	岩鼻正脩	238	春の流	亀山克己	290	スケッチ	
204	ナチュールモルト	橋本邦助	239	吹笛	会員	291	スケッチ	
205	旭森神社	森川松之助	240	山路の暮	北 蓮蔵	292	風俗画	白人ボール・ルスアール
206	大小山	森川松之助	241	岩淵	金沢悌二郎	293	風俗画	白人ボール・ルスアール
207	曇	跡見 泰	242	習作画	龍田精三	294	ミレ筆落穂拾ひ	和田英作模写
208	夏	北 蓮蔵	243	雪	岩鼻正修	295	ウエラスケス筆王女肖像	和田英作模写
209	春の流	亀山克己	244	風景	磯野吉雄	296	月神セメン	山本芳翠
210	葵橋	湯浅一郎	245	夕	岩鼻正修	297	クウルベ筆波濤	和田英作模写
211	植物園	郡司卯之助	246	足柄山	会員	298		

(一一頁)

第八室 水彩画、パステル画類

299 自画像

300 池(習作)

301 池の水際

302 スケッチ

303 風景

304 肖像

305 風景

306 伏陀の研究(草稿)

307 僧迦羅

308 闍威弥尼

309 山住外道と画家外道

310 闍威弥尼と迦毘羅

311 唯須羅婆拘樓須那(自在画)

312 吠耶舎と喬多摩

313 迦毘羅

314 迦耶陀と法顛闍利

315 伏陀の研究(草稿)

316 緑蔭

317 少女

318 不忍池

319 伏陀の研究(草稿)

320 春

321 一部の外道(草稿)

322 秋

323 角筈村の夕

324 雨後の森

325 一部の外道(草稿)

326 芋畑

(一二頁)

327 与茂都比良佐加(草稿)

328 黄昏

329 巴里の紀念 会員

330 少女

331 夕暮

青木 繁

三宅克巳

三宅克巳

市川誠一

西 三雄

江間良吉

西 三雄

青木 繁

青木 繁

青木 繁

青木 繁

青木 繁

青木 繁

青木 繁

青木 繁

青木 繁

青木 繁

丸野 豊

江間良吉

丸野 豊

青木 繁

三宅克巳

青木 繁

三宅克巳

三宅克巳

三宅克巳

三宅克巳

青木 繁

三宅克巳

青木 繁

青木 繁

三宅克巳

岡田三郎助

三宅克巳

三宅克巳

332 静物

333 緑蔭幽径

334 少女

335 月の出

336 第九室 水彩画、パステル画類

旅の紀念(神戸、門司)

337 海

338 ペナン

339 香港

340 角筈附近夏の景

341 シンガポール

342 コロンボの朝

343 躑躅花

344 コロンボ

345 樹木の写生

346 コロンボ

347 スエズ

348 樹蔭

349 ポートセツト

350 マルセーユ

351 緑蔭豊草勝花時

352 ジブラルタル

353 角筈村茶畑

354 勢多の橋

355 釣堀

(一三頁)

356 池畔

357 冬の河辺

358 大久保附近の景

359 平塚町

360 鳴立沢

361 箱根の茶屋

362 藤沢の町

363 大井川

358 海道三州路

359 大井川遠望

360 静物画

361 御油

362 丸子

363 宇都谷

364 峠口

365 日坂

366 雨降山

367 四日市港

368 関の宿屋

369 四日市港の夜

370 大坂城

371 黄昏

372 旧砲台

373 京の舞妓

374 石山

375 舞子

376 沼津の夜

377 藤枝

378 矢作橋

379 浜名湖

380 壁面下絵

381 明石

382 石山

383 関の地蔵

384 淡路島

385 水口

386 鳴門

387 石薬師

388 草津

389 京の舞妓

390 江尻

391 三島

392 安倍川

393 小田原

394 夏の東海道(其二)

358 海道三州路

359 大井川遠望

360 静物画

361 御油

362 丸子

363 宇都谷

364 峠口

365 日坂

366 雨降山

367 四日市港

368 関の宿屋

369 四日市港の夜

370 大坂城

371 黄昏

372 旧砲台

373 京の舞妓

374 石山

375 舞子

376 沼津の夜

377 藤枝

378 矢作橋

379 浜名湖

380 壁面下絵

381 明石

382 石山

383 関の地蔵

384 淡路島

385 水口

386 鳴門

387 石薬師

388 草津

389 京の舞妓

390 江尻

391 三島

392 安倍川

393 小田原

394 夏の東海道(其二)

358 岡野 栄

359 岡野 栄

360 山崎春雄

361 岡野 栄

362 岡野 栄

363 岡野 栄

364 岡野 栄

365 大槻式雄

366 岡野 栄

367 岡野 栄

368 岡野 栄

369 岡野 栄

370 中村春次

371 大槻式雄

372 中沢弘光

373 岡野 栄

374 岡野 栄

375 岡野 栄

376 岡野 栄

377 岡野 栄

378 岡野 栄

379 宇和川通諭

380 岡野 栄

381 岡野 栄

382 岡野 栄

383 岡野 栄

384 岡野 栄

385 岡野 栄

386 岡野 栄

387 岡野 栄

388 岡野 栄

389 岡野 栄

390 中沢弘光

391 岡野 栄

392 岡野 栄

393 岡野 栄

394 中沢弘光

373 夏の東海道（其二、其三） 会員 中沢弘光
 374 夏の東海道（其四） 会員 中沢弘光
 375 夏の東海道（其五、其六） 会員 中沢弘光
 376 夏の東海道（其七） 会員 中沢弘光
 377 夏の東海道（其八、其九） 会員 中沢弘光
 378 夏の東海道（其十） 会員 中沢弘光
 379 夏の東海道（其十一、其十二） 会員 中沢弘光
 380 夏の東海道（其十三） 会員 中沢弘光
 381 夏の東海道（其十四） 会員 中沢弘光
 382 夏の東海道（其十五） 会員 中沢弘光

（一四頁）

383 夏の東海道（其十六） 会員 中沢弘光
 384 夏の東海道（其十七） 会員 中沢弘光
 385 夏の東海道（其十八） 会員 中沢弘光
 386 夏の東海道（其十九） 会員 中沢弘光
 387 河内国高野街道 会員 中沢弘光
 388 夏の東海道（其二十、其廿一） 会員 中沢弘光
 389 常陸国助川 会員 中沢弘光
 390 夏の東海道（其廿二、其廿三、其廿四、其廿五） 会員 中沢弘光

391 大和国龍田川 会員 中沢弘光
 392 夏の東海道（其廿六、其廿七） 会員 中沢弘光
 393 夏の東海道（其廿八、其廿九） 会員 中沢弘光
 394 夏の東海道（其三十） 会員 中沢弘光
 395 夏の東海道（其三十一） 会員 中沢弘光
 396 夏の東海道（其三十二、其三十三） 会員 中沢弘光
 397 河内国三田市 会員 中沢弘光
 398 夏の東海道（其三十四、其三十五） 会員 中沢弘光
 399 京都の春 会員 中沢弘光
 400 夏の東海道（其三十六、其三十七） 会員 中沢弘光
 401 越後新潟港 会員 中沢弘光
 402 夏の東海道（其三十八、其三十九） 会員 中沢弘光
 403 常陸国土浦 会員 中沢弘光
 404 夏の東海道（其四十、其四十一） 会員 中沢弘光
 405 菜園 会員 中沢弘光
 406 夏の東海道（其四十二、其四十三） 会員 中沢弘光

407 京都御室の花 会員 中沢弘光
 408 夏の東海道（其四十四、其四十五） 会員 中沢弘光
 409 舞妓の顔 会員 中沢弘光
 410 夏の東海道（其四十六、其四十七） 会員 中沢弘光
 411 京の舞妓 会員 中沢弘光
 412 夏の東海道（其四十八、其四十九） 会員 中沢弘光

（一五頁）

413 京都清水の塔 会員 中沢弘光
 414 夏の東海道（其五十） 会員 中沢弘光
 415 汽車中スケッチ 会員 中沢弘光
 416 越後国柏崎海岸 会員 中沢弘光
 417 河内国入屋川 会員 中沢弘光
 418 舞妓の顔 会員 中沢弘光
 419 越の荷担ぎ 会員 中沢弘光
 420 夏の東海道（其五十二） 会員 中沢弘光
 421 越の荷担ぎ 会員 中沢弘光
 422 スケッチ 会員 中沢弘光
 423 越後国鯨波 会員 中沢弘光
 424 京のスケッチ 会員 中沢弘光
 425 奈良十三鐘 会員 矢崎千代治
 426 奈良氷室宮 会員 矢崎千代治
 427 大和龍田川 会員 矢崎千代治
 428 奈良大仏殿 会員 矢崎千代治
 429 大和龍田川 会員 矢崎千代治
 430 伊勢宮川 会員 矢崎千代治

註

以上が『明治三十六年 第八回白馬会展覧会出品目録』（精華書院、一九〇三年）に記載される出品作品の一覧であるが、当時の諸新聞、雑誌等の展覧会記事、展覧会評などにより、次のような作品目で記載される作品が出品されていたようである。参考までに掲げておく。

「緑蔭」岡田三郎助、「夕景」小林萬吾、「薔薇花」湯浅一郎、「水仙」湯浅一郎、「舞妓」中沢弘光、「四條納涼」中沢弘光、「五條」中沢弘光、「北越汽車中のスケッチ」中沢弘光、「三

島」中沢弘光、「御油」中沢弘光、「舞坂」中沢弘光、「浜松」中沢弘光。「御堂の花」中沢弘光、「スケッチ」中沢弘光、「月空」磯野吉雄、「モザイク製レムブランド肖像」中丸精十郎、「読書」岡吉枝、「スケッチ」岡吉枝、「風景」大八木一郎、「日の出」三宅克己、「（コロンボ埠頭）」三宅克己、「春」三宅克己、「若草山」亀山克己、「夏海」吉田六松

插图2 『第八回白馬会展览会出品目録』表紙

插图3 『第八回白馬会展览会出品目録』1 頁

挿図4 『第八回白馬会展覧会出品目録』2、3頁

挿図5 『第八回白馬会展覧会出品目録』4、5頁

挿図6 『第八回白馬会展覧会出品目録』6、7頁

挿図7 『第八回白馬会展覧会出品目録』8、9頁

挿図8 『第八回白馬会展覧会出品目録』10、11 頁

挿図9 『第八回白馬会展覧会出品目録』12、13 頁

挿図 10 『第八回白馬会展覧会出品目録』 14、15 頁

挿図 11 『第八回白馬会展覧会出品目録』 末尾頁広告